

令和4年度
島根県学力調査
結果概要

令和5年2月15日（水）
島根県教育委員会

I 実施概要

1 目的

学習指導要領における各教科の目標や内容に照らした学習の状況及び学習や生活に関する意識や実態を客観的に把握し、児童生徒に必要な指導・支援を行うとともに、全国学力・学習状況調査等で明らかになった学習指導上の課題の改善状況を検証し、今後の学校における指導と教育施策の一層の改善・充実に資する。

2 実施日

令和4年12月6日（火）・7日（水）

3 実施校数

公立小学校（県立特別支援学校小学部を含む） 200校
公立中学校（県立特別支援学校中学部を含む） 97校
義務教育学校 2校
（国立義務教育学校及び私立中学校は不参加）

4 実施学年・教科・人数

| | | | 教科に関する調査 | | | 意識調査 | 県全体の 在籍者数 (R4.9.1現在) |
|-----|------|-------|----------|----------|-------|-------|----------------------------|
| | | | 国語 | 算数 数学 | 英語 | | |
| 小学校 | 第5学年 | 実施人数 | 5,298 | 5,294 | | 5,294 | 5,699 |
| | | 割合(%) | 93.0 | 92.9 | | 92.9 | |
| | 第6学年 | 実施人数 | 5,356 | 5,357 | | 5,355 | 5,711 |
| | | 割合(%) | 93.8 | 93.8 | | 93.8 | |
| 中学校 | 第1学年 | 実施人数 | 5,025 | 5,038 | 5,044 | 5,038 | 5,569 |
| | | 割合(%) | 90.2 | 90.5 | 90.6 | 90.5 | |
| | 第2学年 | 実施人数 | 4,891 | 4,906 | 4,900 | 4,902 | 5,574 |
| | | 割合(%) | 87.7 | 88.0 | 87.9 | 87.9 | |

5 県調査の考え方・特徴

(1) 全国学力・学習状況調査（以下「全国調査」という。）と島根県学力調査（以下「県調査」という。）をつなげたPDCAサイクルの構築を推奨している。

- ①全国調査で明らかになった課題を改善するための指導の取組を、県調査で検証するPDCAサイクルを確立し、指導の改善を効果的に進める。
- ②当年度の指導の状況について客観的に評価し、個別指導を充実することにより、年度内に身に付けるべき力を着実に身に付けられるようにする。

(2) 教科に関する調査

フォローアップ機能の充実を図るため標準学力調査を活用する。

(3) 生活・学習に関する意識調査

標準学力調査の質問項目及び県独自に設定した質問項目について調査する。

(4) 課題をとらえやすい帳票とWeb評価支援システムの提供

各学校が自校の課題をとらえやすいよう帳票の各種データ表示を工夫するとともに、Web上で結果データを分析することができるWeb評価支援システムを提供する。

(5) 児童生徒の事後学習を促すための個人帳票とフォローアップ教材の提供

結果を記載した個人帳票に加え、事後学習に活用できるフォローアップ教材を提供する。

6 用語

○平均正答率 : 全設問の正答率の平均値

・島根県値 : 県内の受検者の正答率の平均値

・全国値 : 正答率の全国平均値ではなく、受託業者が過去の実績をもとに、受検データから推定した値

7 公表する調査結果（教育指導課ホームページにも掲載）

令和4年度島根県学力調査 結果概要 *本資料

I 実施概要

II 教科に関する調査の結果

III 意識調査の結果概要

IV 今後の対応

II 教科に関する調査の結果

○教科平均正答率とは、教科における全設問の正答率の平均値を表している。

島根県値：県内の受検者の正答率の平均値

全国値：正答率の全国平均値ではなく、受託業者が過去の実績をもとに、受検データから推定した値

【小学校国語】

1 全体的な結果の概要（○成果 ●課題） (%)

| 学 年 | | 第5学年 | | 第6学年 | |
|--------------|-----------------|------|------|------|------|
| | | 島根県値 | 全国値 | 島根県値 | 全国値 |
| 教科平均正答率 | | 68.4 | 72.7 | 68.0 | 74.5 |
| 領域別 平均正答率 | 話すこと・聞くこと | 65.9 | 69.8 | 82.7 | 85.9 |
| | 書くこと | 56.6 | 67.8 | 52.5 | 70.4 |
| | 読むこと | 73.0 | 74.2 | 58.0 | 61.9 |
| | 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 73.5 | 75.9 | 75.7 | 80.2 |
| | 情報の扱い方に関する事項 | 34.9 | 41.7 | 22.0 | 29.7 |
| | 我が国の言語文化に関する事項 | 55.5 | 67.4 | 79.8 | 82.6 |

【令和4年度全国調査の課題】

A 文学的文章において作品の全体像を捉えたり、表現の効果を考えたりすることに課題が見られる。

B 指定された文字数や条件で書くことについては改善が見られるが、全体の構成に着目して文章を整えるための推敲の観点を捉えることに課題が見られる。

【今年度県調査の状況】

- ・教科平均正答率の島根県値は、第5学年、第6学年ともに全国値を下回った。
- ・各領域について、第5学年「読むこと」は全国値並みであった。その他の領域はいずれも全国値を下回った。

- ① 「読むこと」は全国値との差が小さく、文学的文章の心情把握は概ねできている。
- ② 既習漢字の読みは概ねできしており、第6学年「我が国の言語文化に関する事項」の正答率も昨年度よりやや改善した。
- ① 指定された長さで意見文を書くこと、段落の役割について理解し、指定された段落構成で意見文を書くことに課題がある。・・・B
- ② 第5学年では、自分の意見を支える理由を明確にして書くことに課題がある。・・・B
- ③ 情報と情報の関係を理解し、目的に応じて文章を書くことに課題がある。

2 比較的できている問題

第5学年（1）

〔問題番号〕 2（1）③「言葉の特徴や使い方に関する事項」 ㊦②
 [島根県値 98.8%]
 [全国値 97.1%]

〔問題内容〕

漢字を読む。

〔出題のねらい〕

第5学年に配当されている漢字を正しく読むことができるかをみる。

第6学年（1）

〔問題番号〕 2（1）①「言葉の特徴や使い方に関する事項」 ㊦②
 [島根県値 99.3%]
 [全国値 98.8%]

〔問題内容〕

漢字を読む。

〔出題のねらい〕

第6学年に配当されている漢字を正しく読むことができるかをみる。

第5学年（2）

| | |
|--------------------------------------|-------|
| 〔問題番号〕 4（3）「読むこと」 | ① |
| [島根県値] | 77.5% |
| [全国値] | 74.4% |
| 〔問題内容〕 | |
| 物語の内容の感想として最も適切な選択肢を選ぶ。 | |
| 〔出題のねらい〕 | |
| 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げているかをみる。 | |

第6学年（2）

| | |
|--------------------------------------|-------|
| 〔問題番号〕 4（3）「読むこと」 | ① |
| [島根県値] | 80.2% |
| [全国値] | 81.5% |
| 〔問題内容〕 | |
| 物語の内容の感想として最も適切な選択肢を選ぶ。 | |
| 〔出題のねらい〕 | |
| 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げているかをみる。 | |

3 課題のある問題

第5学年（1）

| | |
|--|-------|
| 〔問題番号〕 6（2）「書くこと」 | ③ |
| [島根県値] | 29.6% |
| [全国値] | 35.9% |
| 〔問題内容〕 | |
| 資料をもとに、注意点に従って新聞記事の下書きを仕上げる。 | |
| 〔出題のねらい〕 | |
| 情報と情報の関係を理解し、目的に応じて文章を簡潔に書くことができるかをみる。 | |

第6学年（1）

| | |
|--|-------|
| 〔問題番号〕 6（2）「書くこと」 | ③ |
| [島根県値] | 29.8% |
| [全国値] | 42.4% |
| 〔問題内容〕 | |
| 資料をもとに、注意点に従って報告文の下書きを仕上げる。 | |
| 〔出題のねらい〕 | |
| 情報と情報の関係を理解し、目的に応じて文章を簡潔に書くことができるかをみる。 | |

第5学年（2）

| | |
|---------------------------------------|-------|
| 〔問題番号〕 7「書くこと」 | ①・② |
| [島根県値] | 64.3% |
| [全国値] | 79.1% |
| 〔問題内容〕 | |
| 字数や記述すべき内容など、複数の条件を満たして作文する。 | |
| 〔出題のねらい〕 | |
| 条件をふまえながら、自分の意見を明確にして文章を書くことができるかをみる。 | |

第6学年（2）

| | |
|---------------------------------------|-------|
| 〔問題番号〕 7「書くこと」 | ①・② |
| [島根県値] | 53.9% |
| [全国値] | 75.4% |
| 〔問題内容〕 | |
| 字数や記述すべき内容など、複数の条件を満たして作文する。 | |
| 〔出題のねらい〕 | |
| 条件をふまえながら、自分の意見を明確にして文章を書くことができるかをみる。 | |

4 今後の指導のポイント

（1）「書くこと」において、指定された条件で意見文を書く学習を充実する。

- ・自分の考えやそれを支える理由や根拠、予想される反論とそれに対する考えを書く活動を設定する。理由や根拠、反論などにあたる情報を収集し、情報を分類、整理することで関連付ける学習活動を取り入れる。その際に、自分が伝えたいことがより伝わる論理の展開や段落構成を工夫できるようにする。
- ・上記のような言語活動を展開する際には、指定された字数で書いたり、決められた時間で書いたりするなど、条件を設定する。また、書いた文章を互いに読んで検討し合うことにより、他者の視点で吟味できるようにする。
- ・書く活動に限らず、自分の考えやそれを支える理由や根拠を伝え合う場面を意図的に設定する。

（2）学習内容を活用する場面を意識する。

- ・学習した言葉や漢字を日常の言語生活で繰り返し活用できるようにする。例えば、日記や作文を書いた後には必ず読み直して、言葉の使い方を振り返るような習慣が身に付くようにする。
- ・書く活動を授業や家庭学習の中に意図的に取り入れ、積み重ねていく。

【小学校算数】

1 全体的な結果の概要 (○成果 ●課題) (%)

| 学 年 | | 第5学年 | | 第6学年 | |
|--------------|--------|------|------|------|------|
| | | 島根県値 | 全国値 | 島根県値 | 全国値 |
| 教科平均正答率 | | 55.6 | 60.0 | 61.2 | 71.6 |
| 領域別 平均正答率 | 数と計算 | 62.2 | 64.5 | 64.2 | 74.6 |
| | 図形 | 48.9 | 54.4 | 66.8 | 73.9 |
| | 変化と関係 | 55.4 | 61.2 | 33.7 | 52.0 |
| | データの活用 | 31.0 | 44.2 | - | - |

【令和4年度全国調査の課題】

A 示された日常の事象における場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察することに課題がある。

B 数学的な表現を用いて筋道を立てて説明することに課題がある。

【今年度県調査の状況】

・ 教科平均正答率及びすべての領域別平均正答率の島根県値は、第5学年、第6学年ともに全国値を下回った。

① 異分母分数の加法の計算は概ね定着している。

② 全国調査で全国との差が最も大きかった「図形」の正答率が、他の領域と比べ、その差が最も小さくなった。

❶ 平均の意味について理解することに課題がある。・・・A

❷ 比の理解や比を簡単にすることに課題がある。・・・A

❸ 式や言葉を用いて記述することに課題がある。・・・B

2 比較的できている問題

第5学年（1）

| |
|--|
| <p>〔問題番号〕 1 (2) 「数と計算」</p> <p style="text-align: right;">[島根県値 79.1%] [全国値 77.9%]</p> <p>〔問題内容〕 公倍数を求める。</p> <p>〔出題のねらい〕 公倍数について理解し、求めることができるかをみる。</p> |
|--|

第6学年（1）

| |
|--|
| <p>〔問題番号〕 12 (2) 「図形」 ㊦②</p> <p style="text-align: right;">[島根県値 90.2%] [全国値 90.3%]</p> <p>〔問題内容〕 対称の中心から対応する点までの長さを選ぶ。</p> <p>〔出題のねらい〕 点対称な図形の対称の中心から対応する2つの点までの長さについて理解しているかをみる。</p> |
|--|

第5学年（2）

| |
|---|
| <p>〔問題番号〕 4 (4) 「数と計算」 ㊦①</p> <p style="text-align: right;">[島根県値 83.2%] [全国値 79.3%]</p> <p>〔問題内容〕 分数のたし算をする。</p> <p>〔出題のねらい〕 異分母分数のたし算で、片方の分母にそろえる通分をする計算（約分あり）ができるかをみる。</p> |
|---|

第6学年（2）

| |
|--|
| <p>〔問題番号〕 12 (3) 「図形」 ㊦②</p> <p style="text-align: right;">[島根県値 81.1%] [全国値 82.9%]</p> <p>〔問題内容〕 点対称な図形をかく。</p> <p>〔出題のねらい〕 点対称な図形について理解し、作図することができるかをみる。</p> |
|--|

3 課題のある問題

第5学年（1）

| |
|-------------------------------------|
| 〔問題番号〕 17（1） 「データの活用」 ① |
| 〔島根県値〕 53.4% |
| 〔全国値〕 66.3% |
| 〔問題内容〕 |
| 5日間に欠席した人数から、1日に平均何人欠席したかを求める。 |
| 〔出題のねらい〕 |
| 値に0があり、答えが小数になる場合の平均を求めることができるかをみる。 |

第6学年（1）

| |
|------------------------|
| 〔問題番号〕 13（1） 「変化と関係」 ② |
| 〔島根県値〕 18.7% |
| 〔全国値〕 45.4% |
| 〔問題内容〕 |
| 分数で表された比と等しい比を選ぶ。 |
| 〔出題のねらい〕 |
| 等しい比について理解しているかをみる。 |

第5学年（2）

| |
|---------------------------------------|
| 〔問題番号〕 17（2） 「データの活用」 ① |
| 〔島根県値〕 22.2% |
| 〔全国値〕 40.4% |
| 〔問題内容〕 |
| 全体から取り出した4個の重さから、全体のおよその重さを求めることができる。 |
| 〔出題のねらい〕 |
| 平均から全体の量を推測することができるかをみる。 |

第6学年（2）

| |
|---|
| 〔問題番号〕 14（2） 「数と計算」 ③ |
| 〔島根県値〕 36.9% |
| 〔全国値〕 48.6% |
| 〔問題内容〕 |
| 割合を使って基準量を求め、どちらが多いかの求め方を説明する。 |
| 〔出題のねらい〕 |
| 割合が分数の場合において、基準量を求め、どちらが何個多いかの求め方を説明することができるかをみる。 |

4 今後の指導のポイント

（1） 日常の事象から問題を見だし解決する活動の充実を図る。

- 平均については、児童が形式的に計算できればよいというものではなく、測定した結果を平均する方法について考えさせ、学習や日常生活に生かせるようにする。
- 比は、日常生活のいろいろな場面で用いられる。部分と部分の関係どうしを考察する場面、2つの数量を配分する場面で、数量の関係を比で表現し、等しい比をつくるなどして考察した結果を活用して、課題を解決させるようにする。また、日常生活において、比によって数量の関係を表現している事象を探る活動を通して、比による数量の関係への着目の仕方に親しませることも大切である。

（2） 数学的に表現し伝え合う活動の充実を図る。

- 問題解決における思考の過程や判断の結果などを、図や式などを適切に用いて自分なりに表現させるようにする。
- 思考した過程や結果などを数学的な表現を用いて伝え合う機会を設ける。
- 伝え合う活動により、お互いの考えをよりよいものにしたたり、一人では気付くことのできなかつた新たなことを見いだしたりする経験ができるようにする。

【中学校国語】

1 全体的な結果の概要 (○成果 ●課題) (%)

| 学 年 | | 第 1 学年 | | 第 2 学年 | |
|--------------|-----------------|--------|------|--------|------|
| | | 島根県値 | 全国値 | 島根県値 | 全国値 |
| 教科平均正答率 | | 58.5 | 59.0 | 65.3 | 68.5 |
| 領域別 平均正答率 | 話すこと・聞くこと | 60.8 | 60.0 | 69.0 | 72.3 |
| | 書くこと | 42.7 | 51.2 | 49.6 | 56.8 |
| | 読むこと | 59.1 | 56.2 | 55.4 | 55.3 |
| | 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 63.9 | 64.3 | 77.4 | 79.9 |
| | 情報の扱い方に関する事項 | 49.2 | 46.4 | 49.0 | 51.8 |
| | 我が国の言語文化に関する事項 | 55.0 | 53.8 | 89.5 | 91.7 |

【令和4年度全国調査の課題】

- A 自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことに課題がある。
- B 表現の技法についての理解に課題がある。
- C 自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することや、工夫の意図を理解することに課題がある。

【今年度県調査の状況】

- ・ 教科平均正答率の島根県値は、第1学年では全国値並みで、第2学年では全国値を下回った。
- ・ 各領域について、「書くこと」は両学年とも全国値を下回った。第1学年は「情報の扱い方に関する事項」「読むこと」で全国値を上回り、他の領域は全国値並みであった。第2学年は「読むこと」は全国値並みで、他の領域は全国値を下回った。
- ① 文学的文章や説明的文章の内容読解は第1学年で正答率が高く、第2学年は全国値並みであった。昨年度県調査の課題であった複数の情報の整理を伴う内容読解についても改善した。
- ② 表現の工夫の意図を理解することについては改善した。・・・C
- ① 作文問題の無答率が高く、まとまった分量の文章を書くことや、問題を解く際の時間配分に課題がある。・・・A
- ② 既習の漢字の読み書き、敬語や歴史的仮名遣いの理解に課題がある。
- ③ 第2学年で、自分の考えがわかりやすく伝わるように資料と関連付けて表現したり、資料の示し方を工夫したりすることに課題がある。・・・C

2 比較的できている問題

第1学年(1)

| |
|---|
| 〔問題番号〕 4 (2) 「読むこと」 ㊦① |
| [島根県値 59.3%] |
| [全国値 54.7%] |
| 〔問題内容〕 |
| 図の空欄に当てはまる言葉を文章中から抜き出す。 |
| 〔出題のねらい〕 |
| 情報と情報の関係について理解し、必要な情報に着目して内容を捉えることができるかをみる。 |

第2学年(1)

| |
|-------------------------------------|
| 〔問題番号〕 4 (1) 「読むこと」 ㊦① |
| [島根県値 49.0%] |
| [全国値 47.3%] |
| 〔問題内容〕 |
| 文章で述べられている内容として適切ではないものを選ぶ。 |
| 〔出題のねらい〕 |
| 文章全体と部分との関係に注意しながら内容を捉えることができるかをみる。 |

第1学年(2)

〔問題番号〕 5 (2) 「読むこと」 ②
 [島根県値 64.6%]
 [全国値 58.1%]

〔問題内容〕

表現の説明として適切ではないものを選ぶ。

〔出題のねらい〕

表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかをみる。

第2学年(2)

〔問題番号〕 4 (2) 「読むこと」 ①
 [島根県値 58.7%]
 [全国値 58.9%]

〔問題内容〕

図の空欄に当てはまる言葉を文章中から抜き出す。

〔出題のねらい〕

情報と情報の関係について理解し、目的に応じて複数の情報を整理しながら内容を解釈できるかをみる。

3 課題のある問題

第1学年(1)

〔問題番号〕 2 (2) ③ 「言葉の特徴や使い方に関する事項」 ②
 [島根県値 66.0%]
 [全国値 72.7%]

〔問題内容〕

かなを漢字に直して書く。

〔出題のねらい〕

小学校で学習した漢字を正しく書くことができるかをみる。

第2学年(1)

〔問題番号〕 1 (2) 「話すこと・聞くこと」 ③
 [島根県値 65.0%]
 [全国値 72.3%]

〔問題内容〕

話し手の資料の示し方の工夫として最も適切なものを選ぶ。

〔出題のねらい〕

資料や機器を用いて、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫することができるかをみる。

第1学年(2)

〔問題番号〕 7 「書くこと」 ①
 [島根県値 42.7%]
 [全国値 51.2%]

〔問題内容〕

字数や記述すべき内容など、複数の条件を満たして作文する。

〔出題のねらい〕

条件をふまえながら、自分の考えを明確にして文章を書くことができるかをみる。

第2学年(2)

〔問題番号〕 7 「書くこと」 ①
 [島根県値 49.9%]
 [全国値 59.7%]

〔問題内容〕

字数や記述すべき内容など、複数の条件を満たして作文する。

〔出題のねらい〕

条件をふまえながら、自分の考えを明確にして文章を書くことができるかをみる。

4 今後の指導のポイント

(1) 指定された条件に応じて、自分の考えを明確にして書くための学習過程を工夫する。

- ・決められた字数や時間で書くなど、指定された条件に応じて文章を書く学習活動や、書いた文章を互いに読み、条件に即しているか吟味する学習活動を繰り返し設定する。
- ・自分の考えをより確実に伝えるために、話し合いなどを通して文章の構成や表現を工夫する学習活動を設定する。

(2) 漢字や語句など言語について既習の知識を活用し定着を図る場面を工夫する。

- ・他教科や総合的な学習の時間等の学習、家庭学習、日常生活なども含め、既習事項を活用する場を繰り返し設定する。

(3) 複数の情報の関係を整理し、自分の考えを表現するための学習過程を工夫する。

- ・資料や図表、機器を活用して、自分の考えをアウトプット(話す、書く)したり、情報をインプット(聞く、読む)して吟味したりする言語活動を設定する。
- ・資料や図表などの集めた情報から、複数の情報を関連付けて自分の考えの理由や根拠を形成し、思考ツールを用いたり話し合ったりして吟味する学習活動を設定する。

【中学校数学】

1 全体的な結果の概要 (○成果 ●課題)

(%)

| 学 年 | 第 1 学年 | | 第 2 学年 | | |
|--------------|--------|------|--------|------|------|
| | 島根県値 | 全国値 | 島根県値 | 全国値 | |
| 教科平均正答率 | 52.5 | 50.9 | 45.9 | 50.5 | |
| 領域別 平均正答率 | 数と式 | 52.2 | 50.6 | 40.0 | 44.6 |
| | 図形 | 65.5 | 60.2 | 60.8 | 63.3 |
| | 関数 | 49.9 | 47.6 | 44.3 | 49.6 |
| | データの活用 | - | - | - | - |

【令和 4 年度全国調査の課題】

A 「関数」において、変化や対応の特徴を見出し、式と関連付けることに課題がある。

B 根拠を基に説明することに課題がある。

【今年度県調査の状況】

- ・ 教科平均正答率の島根県値は、第 1 学年が全国値並みで、第 2 学年は全国値を下回った。
 - ・ 領域別平均正答率は、第 1 学年は「図形」及び「関数」で島根県値が全国値を上回ったが、第 2 学年は全領域で島根県値が全国値を下回った。
- ① 両学年とも、「図形」についての基礎的な内容は、概ね定着している。
 - ② 第 1 学年の「数と式」については、数についての用語の意味理解ができています。
 - ❶ 全国調査で課題であった「関数」については、第 1 学年では改善の傾向が見られるものの、両学年とも変化や対応の特徴を基に説明することに課題がある。…A、B
 - ❷ かっこや分数を含むような、やや難易度の高い文字式の計算について、定着が不十分である。

2 比較的できている問題

第 1 学年 (1)

| | | |
|--|--------|-------|
| 〔問題番号〕 2 | 〔数と式〕 | 👉② |
| | 〔島根県値〕 | 77.9% |
| | 〔全国値〕 | 71.1% |
| 〔問題内容〕 | | |
| 基準をもとに、正負の数を使って点数の差を求める。 | | |
| 〔出題のねらい〕 | | |
| 平均値を基準にして、正の数・負の数を用いた表現の意味を理解しているかをみる。 | | |

第 2 学年 (1)

| | | |
|---|--------|-------|
| 〔問題番号〕 15 (1) | 〔図形〕 | 👉① |
| | 〔島根県値〕 | 72.1% |
| | 〔全国値〕 | 67.1% |
| 〔問題内容〕 | | |
| 図形の証明において、結論となることがらを示す。 | | |
| 〔出題のねらい〕 | | |
| 命題の仮定と結論を区別し、与えられた命題の結論を読み取ることができるかをみる。 | | |

第 1 学年 (2)

| | | |
|------------------------------|--------|-------|
| 〔問題番号〕 15 | 〔図形〕 | 👉① |
| | 〔島根県値〕 | 44.5% |
| | 〔全国値〕 | 37.5% |
| 〔問題内容〕 | | |
| 三角形を回転移動させたときの図形を作図する。 | | |
| 〔出題のねらい〕 | | |
| 指定された移動の方法に従って、図形を作図できるかをみる。 | | |

第 2 学年 (2)

| | |
|-------------------------------------|--------------|
| 〔問題番号〕 10 | 〔関数〕 |
| | 〔島根県値〕 25.1% |
| | 〔全国値〕 25.4% |
| 〔問題内容〕 | |
| 水そうに入れる水の深さ(高さ)と時間との関係を式で表す。 | |
| 〔出題のねらい〕 | |
| 具体的な数量の関係から、1次関数の式をつくらせることができるかをみる。 | |

3 課題のある問題

第1学年(1)

| |
|--|
| 〔問題番号〕 17 (2) 〔関数〕 ① |
| 〔島根県値〕 9.9% |
| 〔全国値〕 14.6% |
| 〔問題内容〕 |
| 海水の量ととり出せる塩の量の関係を式で表し、式から必要な海水の量を求める方法を説明する。 |
| 〔出題のねらい〕 |
| 具体的な数量の関係から、比例の式を求めることができる。また、その式から、指定された数量の求め方を説明できるかをみる。 |

第2学年(1)

| |
|---|
| 〔問題番号〕 17 (2) 〔関数〕 ① |
| 〔島根県値〕 3.2% |
| 〔全国値〕 10.3% |
| 〔問題内容〕 |
| 特定の冊数を超えた場合、A社が最も得であることを、グラフを用いて求める方法について、説明する。 |
| 〔出題のねらい〕 |
| 指定された値を求める方法について、複数の1次関数のグラフの比較をもとに説明できるかをみる。 |

第1学年(2)

| |
|----------------------|
| 〔問題番号〕 4 (4) 〔数と式〕 ② |
| 〔島根県値〕 41.5% |
| 〔全国値〕 46.5% |
| 〔問題内容〕 |
| かっこを使った2つの式の差を求める。 |
| 〔出題のねらい〕 |
| 1次式の減法が計算できるかをみる。 |

第2学年(2)

| |
|----------------------|
| 〔問題番号〕 2 (3) 〔数と式〕 ② |
| 〔島根県値〕 28.0% |
| 〔全国値〕 37.6% |
| 〔問題内容〕 |
| 分数を含む文字式の減法を計算する。 |
| 〔出題のねらい〕 |
| 多項式の減法が計算できるかをみる。 |

4 今後の指導のポイント

(1) 関数における次の過程を重視した数学的活動の充実を図る。

- ①日常や社会の事象を関数と捉えて問題を見出す過程。
- ②数・式、図、表、グラフなどを活用して解決する過程。
- ③その結果について根拠を明らかにして他者に説明する過程。

(2) 小学校算数科からの系統性を意識した文字式の計算の指導を行う。

- ・小学校で既習のかっこや分数を含む計算の学習内容を把握し、中学校の指導内容の整理や焦点化を行いながら、系統性を意識した文字式の指導の充実を図る。

【中学校英語】

1 全体的な結果の概要 (○成果 ●課題) (%)

| 学 年 | | 第 1 学年 | | 第 2 学年 | |
|--------------|------|--------|------|--------|------|
| | | 島根県値 | 全国値 | 島根県値 | 全国値 |
| 教科平均正答率 | | 51.6 | 51.4 | 49.4 | 54.2 |
| 領域別 平均正答率 | 聞くこと | 66.0 | 65.7 | 64.5 | 69.3 |
| | 話すこと | - | - | - | - |
| | 読むこと | 49.4 | 48.5 | 49.6 | 53.9 |
| | 書くこと | 42.0 | 43.4 | 34.1 | 39.7 |

【令和3年度県調査の課題】

- A 対話の流れに沿って英文を書いたりするなど、場面や状況に応じて既習の語彙や文法を活用し英文を書く力に課題が見られ、無解答率が高い。
- B 聞いたり読んだりした内容をもとに思考・判断したうえで、既習の語彙や文法を活用し場面や状況に応じた英文を書くなど領域を統合して活用する力に課題が見られ、無解答率が高い。
- C 第2学年「聞くこと」において、対話の内容を聞き、その意味を理解して適切に応答する力に課題がある。

【今年度県調査の状況】

- 平均正答率の島根県値は、第1学年は全国値並みであったが、第2学年は全国値を下回った。
 - 領域別に見ると、第1学年では全ての領域で全国値並みであったが、第2学年は全ての領域で全国値を下回った。
- 第1学年は、「聞くこと」においては、まとまりのある英文を聞いて、話の概要を捉える力は概ね定着している。
 - 第1学年は、「読むこと」においては、まとまりのある英文を読んで、その要点を捉える力は全国値を上回った。
 - 両学年ともに、聞いたことをもとに思考・判断したうえで、場面や状況に応じて既習の語彙や表現を活用し英文を書く力は、全国値並みであり、改善が見られた。・・・B
 - 第2学年は、「読むこと」においては、まとまりのある英文を読んで、必要な情報を把握する力は、全国値並みであった。
- ❶ テーマや対話の流れに沿って英文を書くなど、場面や状況に応じて既習の語彙や文法を活用し英文を書く力に引き続き課題が見られ、無解答率が高い。・・・A
- ❷ 読んだ内容をもとに思考・判断したうえで、既習の語彙や文法を活用し場面や状況に応じた英文を書くなど領域を統合して活用する力に引き続き課題が見られ、無解答率が高い。・・・B

2 比較的できている問題

第1学年(1)

| |
|---|
| <p>[問題番号] 3 「聞くこと」 ☞①</p> <p>[島根県値 95.3%] [全国値 93.6%]</p> <p>[問題内容] まとまりのある英文を聞いて、話の流れに合うように場面絵を並びかえる。</p> <p>[出題のねらい] 英文を聞いて、話の概要を捉える力をみる。</p> |
|---|

第2学年(1)

| |
|---|
| <p>[問題番号] 5 「聞くこと」「書くこと」 ☞③</p> <p>[島根県値 38.7%] [全国値 39.3%]</p> <p>[問題内容] ビデオメッセージのまとまりのある英文を聞いて、質問されたことに対する返答を3語以上の英文で書く。</p> <p>[出題のねらい] 領域統合型の問題において、まとまりのある英文を聞いて理解し、話の流れに合うように既習の語彙や表現を活用し英文を書く力をみる。</p> |
|---|

第1学年(2)

| | |
|-------------------------------------|-------|
| [問題番号] 7 (3) 「読むこと」 ㊦② | |
| [島根県値] | 63.0% |
| [全国値] | 60.8% |
| [問題内容] | |
| 人物についての紹介文を読んで、話者が一番伝えたいことを選択肢から選ぶ。 | |
| [出題のねらい] | |
| まとまりのある英文を読んで、その要点を捉える力をみる。 | |

第2学年(2)

| | |
|----------------------------------|-------|
| [問題番号] 7 (2) 「読むこと」 ㊦④ | |
| [島根県値] | 30.7% |
| [全国値] | 30.7% |
| [問題内容] | |
| まとまりのある英文を読んで、必要な情報が書かれている段落を選ぶ。 | |
| [出題のねらい] | |
| まとまりのある英文を読んで、必要な情報を読み取る力をみる。 | |

3 課題のある問題

第1学年(1)

| | |
|---|--------------|
| [問題番号] 9 (1) 「読むこと」「書くこと」 | |
| ㊦①② | [島根県値] 10.8% |
| | [全国値] 13.7% |
| [問題内容] | |
| 対話文を読み、対話が成り立つように空欄に入る適切な英文を3語以上の1文で書く。 | |
| [出題のねらい] | |
| 対話の内容を読んで理解し、話の流れに合うように既習の語彙や表現を活用し英文を書く力をみる。 | |

第2学年(1)

| | |
|--|--------------|
| [問題番号] 8 (4) 「読むこと」「書くこと」 | |
| ㊦② | [島根県値] 30.3% |
| | [全国値] 35.3% |
| [問題内容] | |
| まとまりのあるメール文を読み、返信するメール文の空欄に2語以上を用いて文を書く。 | |
| [出題のねらい] | |
| 領域統合型の問題において、まとまりのある英文を読んで理解し、既習の語彙や表現を活用し英文を書く力をみる。 | |

第1学年(2)

| | |
|--|-------|
| [問題番号] 10 「書くこと」 ㊦① | |
| [島根県値] | 44.1% |
| [全国値] | 50.8% |
| [問題内容] | |
| 与えられたテーマについて、理由等を含めて3文以上で説明する英文を書く。 | |
| [出題のねらい] | |
| テーマにそって、自分の考えや気持ちについて、既習の語彙や表現を活用し英文を書く力をみる。 | |

第2学年(2)

| | |
|---|-------------|
| [問題番号] 10 (2) 「読むこと」「書くこと」 | |
| ㊦①② | [島根県値] 5.1% |
| | [全国値] 10.0% |
| [問題内容] | |
| 対話文を読み、対話が成り立つように空欄に入る適切な英文を3語以上の1文で書く。 | |
| [出題のねらい] | |
| 対話の内容を読んで理解し、話の流れに合うように既習の語彙や表現を活用し英文を書く力をみる。 | |

4 今後の指導のポイント

(1) 既習の語彙や表現を活用し、思考・判断・表現する言語活動を通して指導する。

- ・言語活動は、実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなどの活動を基本とし、4技能5領域について、生徒がコミュニケーションの目的や場面、状況等を意識して行うことができるように工夫する。「文法はコミュニケーションを支えるもの」であることを踏まえ、コミュニケーションの目的を達成するうえでの必要性や有用性を実感させたり、知識を活用させたり、生徒の気づきを促したりするなど、言語活動と関連付けて指導することが重要である。
- ・小学校で指導された表現を、中学校の言語活動において繰り返し活用することにより、生徒が自分の考えなどを表現する際にそれらを活用し、話したり書いたりして表現できるような段階まで定着させることが重要である。そのために、小学校で使用されている教科書を確認したり、「情報交換」「授業交流」「カリキュラム連携」を行ったりするなど積極的に小学校と連携することが必要である。

(2) 複数の領域を統合した領域統合型の言語活動を設ける。

- ・聞いたり読んだりした内容について、自分の考えや気持ち、意見や感想を話したり書いたりして、伝え合う領域統合型の言語活動を設ける。例えば、読むことについて、本文は「読んで理解するためのもの」だけではなく、「自分の考えをもつために読むもの」という見方をすることは、領域統合型の言語活動の充実には欠かせない。

Ⅲ. 意識調査の結果概要

1 しまねの学力育成推進プランの達成状況を把握する質問項目

(1) 授業の質の充実

- ①学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う。
- ②(国語)話し合いで、自分の考えを積極的に話している。
- ③(国語)話し合いで、相手の話をしっかり聞き取っている。
- ④授業で学んだことを、ほかの学習に生かしている。
- ⑤国語の授業で習ったことは、復習している。
- ⑥算数・数学の授業で習ったことは、復習している。
- ⑦今年度の授業でコンピュータ・タブレットなどのICTをどの程度使用しましたか。

【令和4年度全国調査時の課題】

- 話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり広げたりすることができていると回答している児童生徒が増加し、教科に関する調査結果につながり始めている。引き続き話し合いの質を高めるために、「話し合う目的や話し合いの視点を教師が具体的に提示し明確にすること」「個の考えを表現する時間と場を設けること」などの工夫が必要である。
- 各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っているという回答した児童生徒は、増加傾向にある。引き続き学年間や単元の系統性や関連性をしっかり意識し、学んだ知識や技能を繰り返し活用する場面を設定する必要がある。
- 学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていると回答した生徒は、全国平均を上回っている。引き続き児童生徒にとって個別最適な学びとなるように授業を工夫することが重要である。また、児童生徒の学習改善が進むように適切な助言をする必要がある。

(2) 家庭学習の充実

- ⑧学校に行く日は、学校の授業時間以外に、1日にどのくらい勉強をしますか。
- ⑨自分で勉強の計画を立てて、勉強している。
- ⑩家の人から言われなくても、進んで勉強している。
- ⑪授業で興味・関心を持った内容について、自主的に調べ学習を行っている。
- ⑫普段(月曜日から金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか。(携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除きます。)

【令和4年度全国調査時の課題】

- 学校の授業時間以外の平日(月曜日～金曜日)1日あたり1時間以上勉強する児童生徒の割合を全国平均と比較すると、小学校では上回っているが、中学校では依然として差が大きい。引き続き家庭学習を意識した授業を展開することにより、家庭学習の充実を図る必要がある。
- 児童生徒に家庭での学習方法を具体的にアドバイスするなど、学校全体として意識的に取組が進められている。児童生徒一人一人の課題への取組状況を把握し、教員の指導改善や児童生徒の学習改善に生かしていく必要がある。

(3) 地域に関わる学習の充実

- ⑬「総合的な学習の時間」では、集めた情報を課題に沿って整理して考え、発表する学習に取り組んでいる。
- ⑭地域の行事に参加している。
- ⑮地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある。

【令和4年度全国調査時の課題】

- 総合的な学習の時間において探究の過程(課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現)を意識した授業が展開されている。児童生徒が課題を自分ごととして捉え、主体的に課題解決していくために、児童生徒にとって身近な地域素材を活用することが有効である。
- 「ふるさと教育」の成果もあり、地域の行事に参加する児童生徒の割合は全国に比べて高い。地域での経験や素材を各教科の学習においても取り上げることで、より興味・関心をもたせたり、学びを地域や社会での生活に生かす意識を高めたりする必要がある。

(4) その他

- ⑩ 普段（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームを含む）をしますか。
 ⑫ 普段（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンを使っていますか。（勉強のための携帯電話やスマートフォンを使う時間は除く） [再掲]

【令和4年度全国調査時の課題】

○授業日（月曜日～金曜日）の家庭でのテレビゲームの利用時間は、昨年度に比べ、小学校で増加し、中学校では減少した。引き続きスマートフォン等の活用法や利用時間を含め、家庭と更に連携を深めていく必要がある。

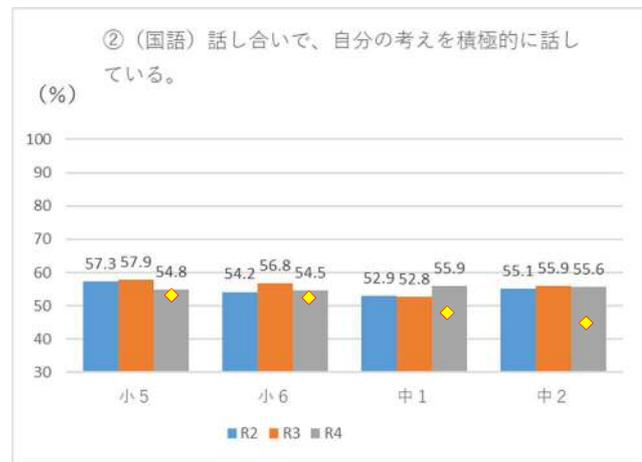
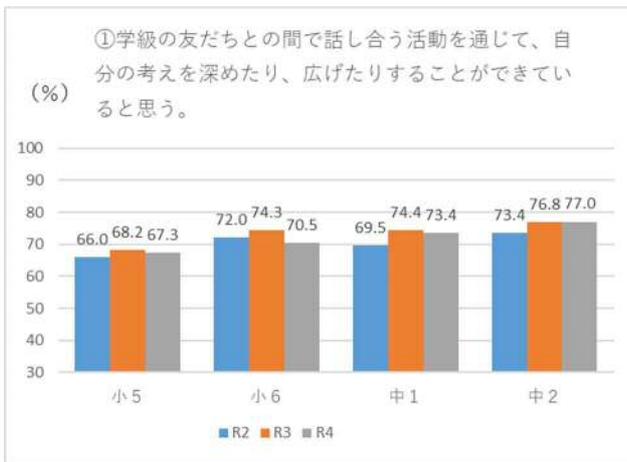
2 課題の改善状況

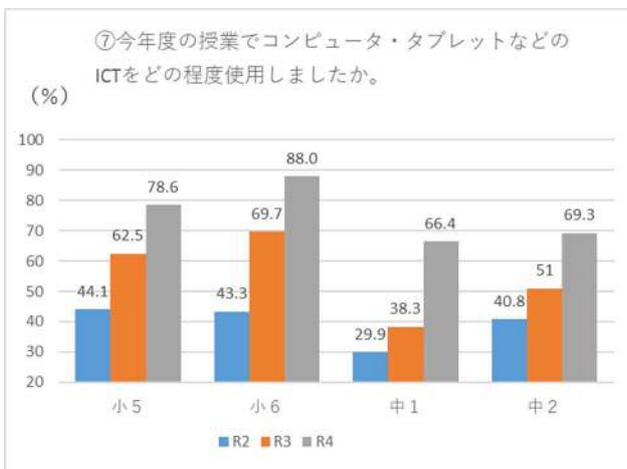
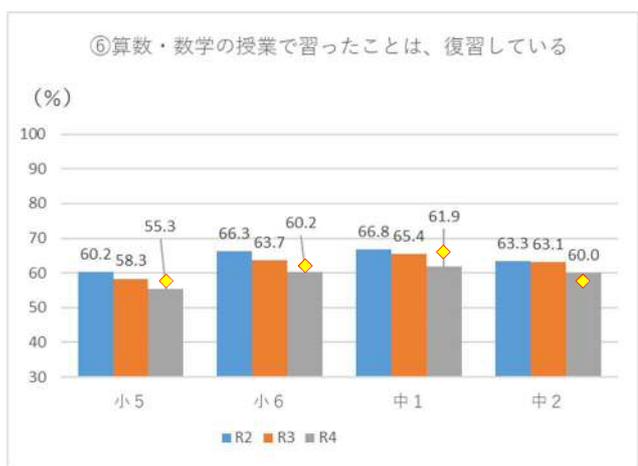
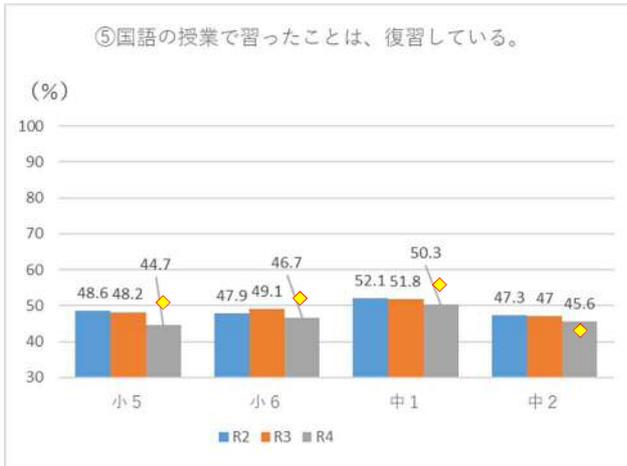
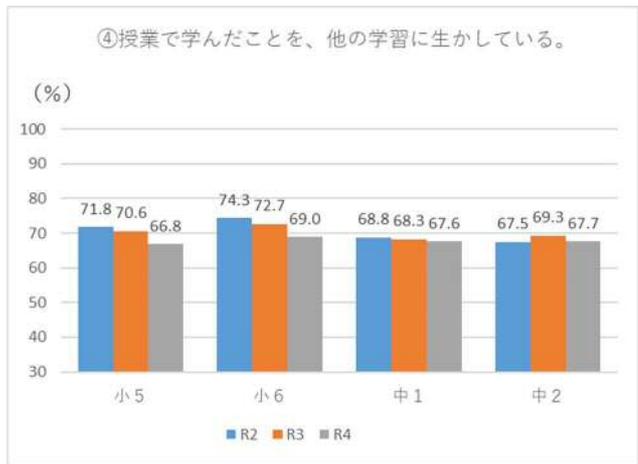
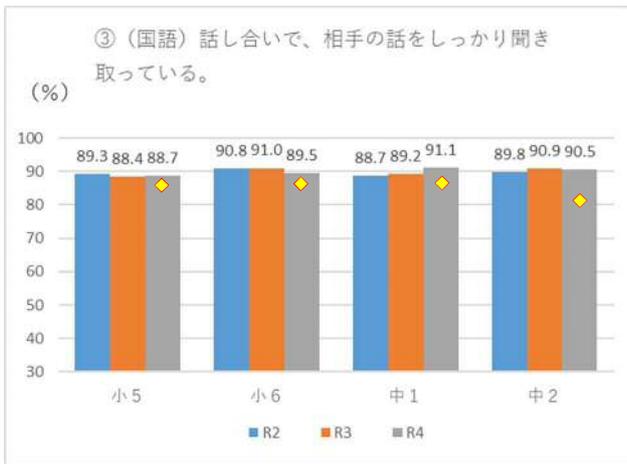
※数値は質問紙において「とてもあてはまる」「まああてはまる」と肯定的な回答をした割合。

※グラフの◆は、全国値を示している。◆のないグラフは県独自の設問。

(1) 授業の質の充実

- 「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と回答している児童生徒の割合は、学年が進むにつれて上がっている。また、「国語での話し合いで、相手の話をしっかり聞いている」と回答した児童生徒や「自分の考えを積極的に話している」と回答した児童生徒の割合は、全国値を上回っている。今後も、日々の授業において、「話し合う目的や話し合いの視点を児童生徒が理解できるように提示すること」「個の考えを表現する時間と場を設けること」などの工夫が必要である。
- 小学校においては、「授業で学んだことを、他の学習に生かしている」と回答した児童の割合は下がり、中学校においては、前年度並みであった。各校種で見ると学年が進むにつれて数値が上がっている。今後も引き続き、教科の系統性、教科間の関連性を意識して指導計画を作成し、児童生徒が学んだ知識や技能を活用する場面を意図的に設定することが必要である。
- 「国語や算数・数学の授業で習ったことは、復習している」と回答している児童生徒の割合は、下がっている。児童生徒が、学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができるよう、自己の学びを振り返る時間を充実させるとともに、引き続き児童生徒にとって個別最適な学びとなるように授業を工夫することが重要である。
- 小中学校ともに、授業でのコンピュータ・タブレットの使用割合が大幅に上がっている。それぞれの学校や教師が1人1台端末を活用した授業研究に取り組んだ成果であると考えられる。今後は、更なる授業改善に向け、効果的にICT機器を活用することが大切である。



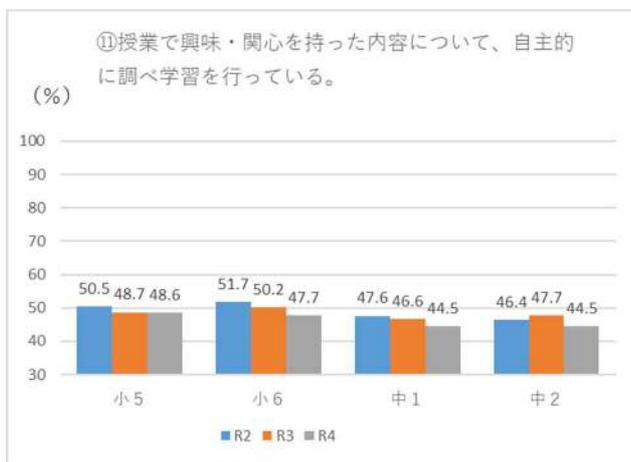
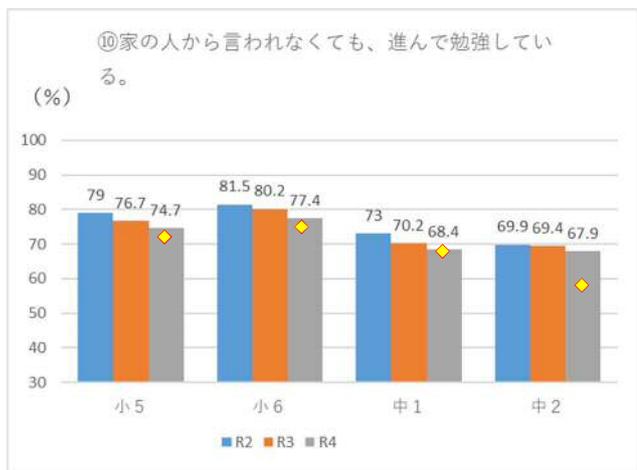
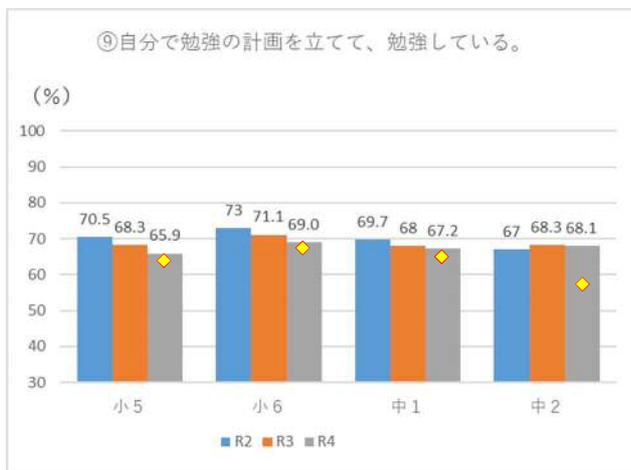
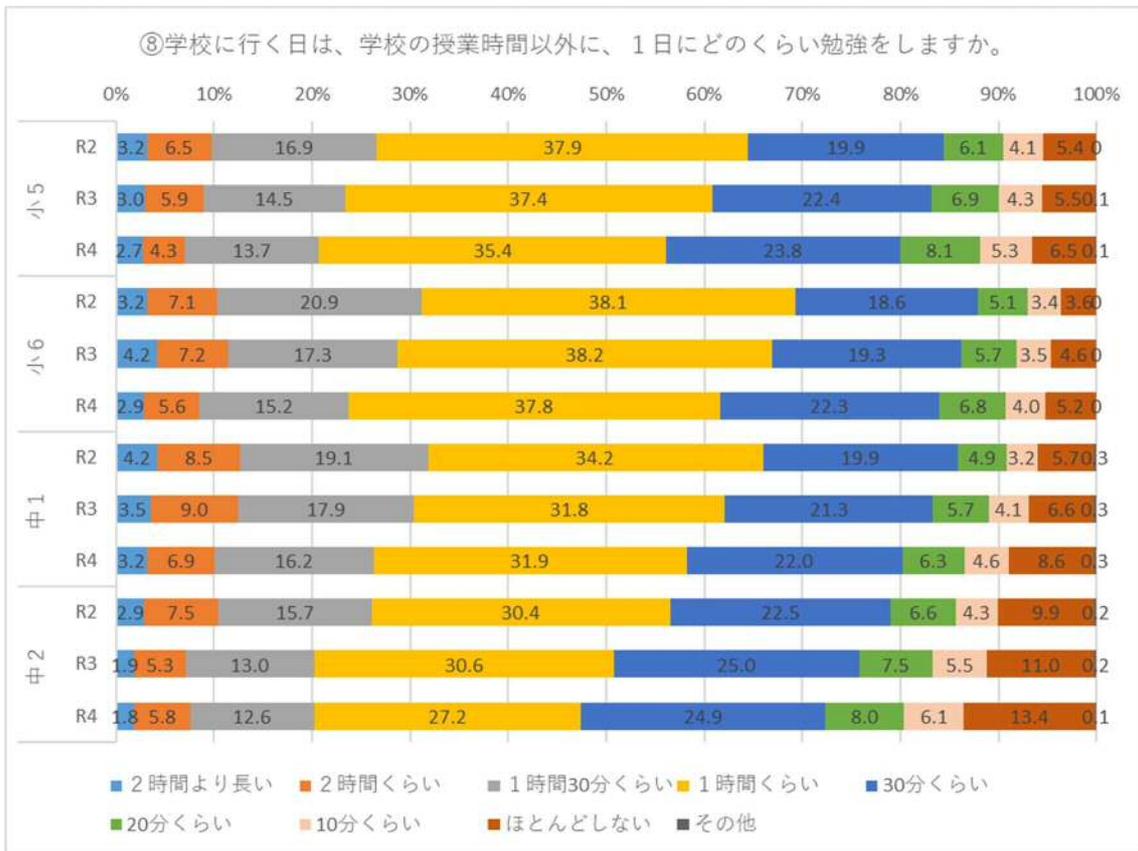


※週1回以上使用したと回答した児童生徒の割合を集計
 ※R2・3の質問は、「これまでの授業でコンピュータなどのICTをどの程度使用しましたか。」

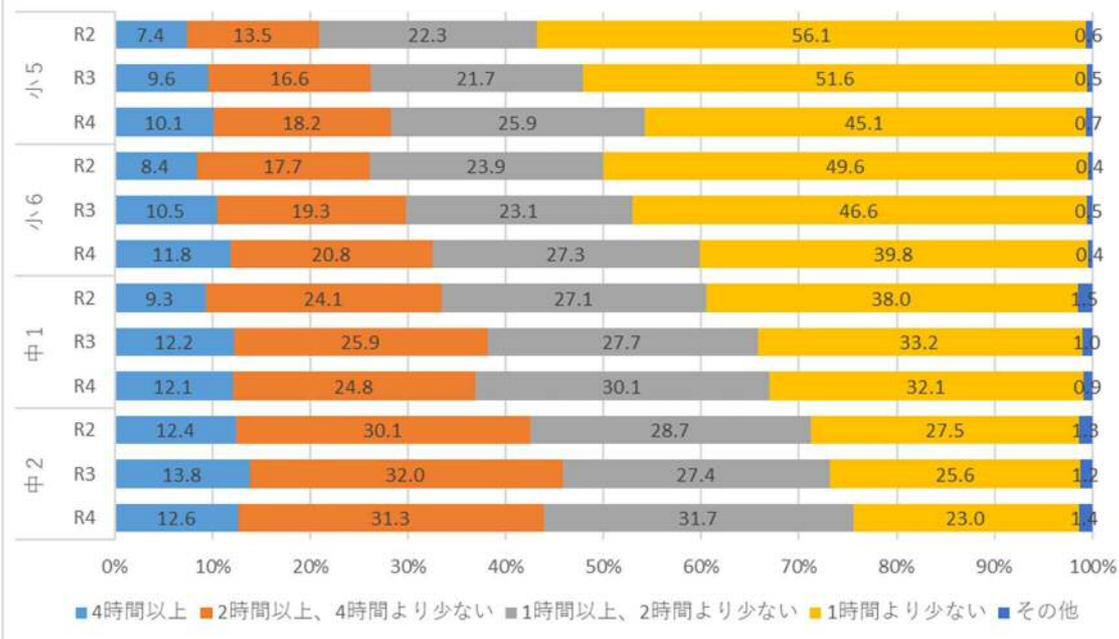
(2) 家庭学習の充実

○普段(月曜日から金曜日)学校の授業時間以外に1日あたり1時間以上勉強する児童生徒の割合が下がっている。各学校では、家庭学習の方法等をアドバイスしたり、コメントをしたりする取組が行われ、自分で勉強の計画を立てて勉強している児童生徒の割合、家の人に言われなくても自分で進んで勉強する割合は全国平均を上回っているが、授業で興味・関心を持った内容について、自主的に調べ学習を行っている児童生徒の割合は下がっている。授業で学んだことが家庭学習につながり、家庭学習で行ったことが次の授業で生かされるサイクルを意識した授業づくり、家庭学習の方法についての個別のアドバイス、1人1台端末の活用など、家庭学習指導の充実を図る必要がある。

○普段(月曜日から金曜日)、1日あたりのSNSや動画視聴の時間が増加している。家庭生活を計画的に過ごすことができるようにマネジメントする力が重要となる。各学校で取り組んでいる家庭学習計画表等について、実施後の振り返りを次の計画に生かしていくところまで指導することが重要である。



⑫普段（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか。（携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除きます。）

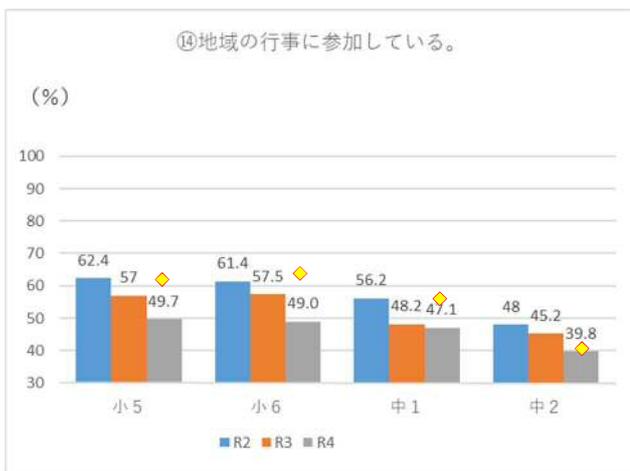
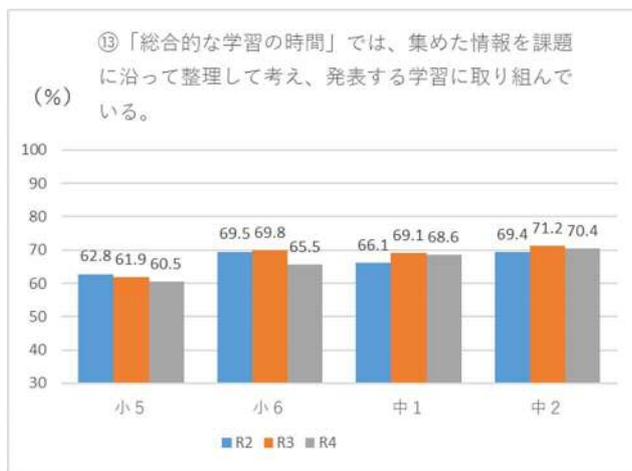


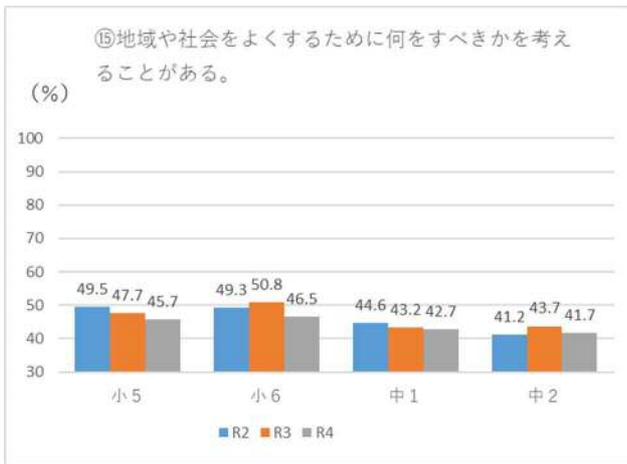
※R2・3の質問は、「普段（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンを使いますか。（携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間は除きます。）」

(3) 地域に関わる学習の充実

○「総合的な学習の時間では、集めた情報を課題に沿って整理して考え、発表する学習に取り組んでいる」と回答した児童生徒の割合は小中ともに下がっているが、学年が進むにつれてその割合は上がっていることから、各学校では、総合的な学習の時間において、探究的な学習の過程を意識した授業が展開されていると思われる。本年度発行した「総合的な学習の時間ガイドブック」を活用し、さらに探究的な学習の過程の質の向上に取り組むことが期待される。

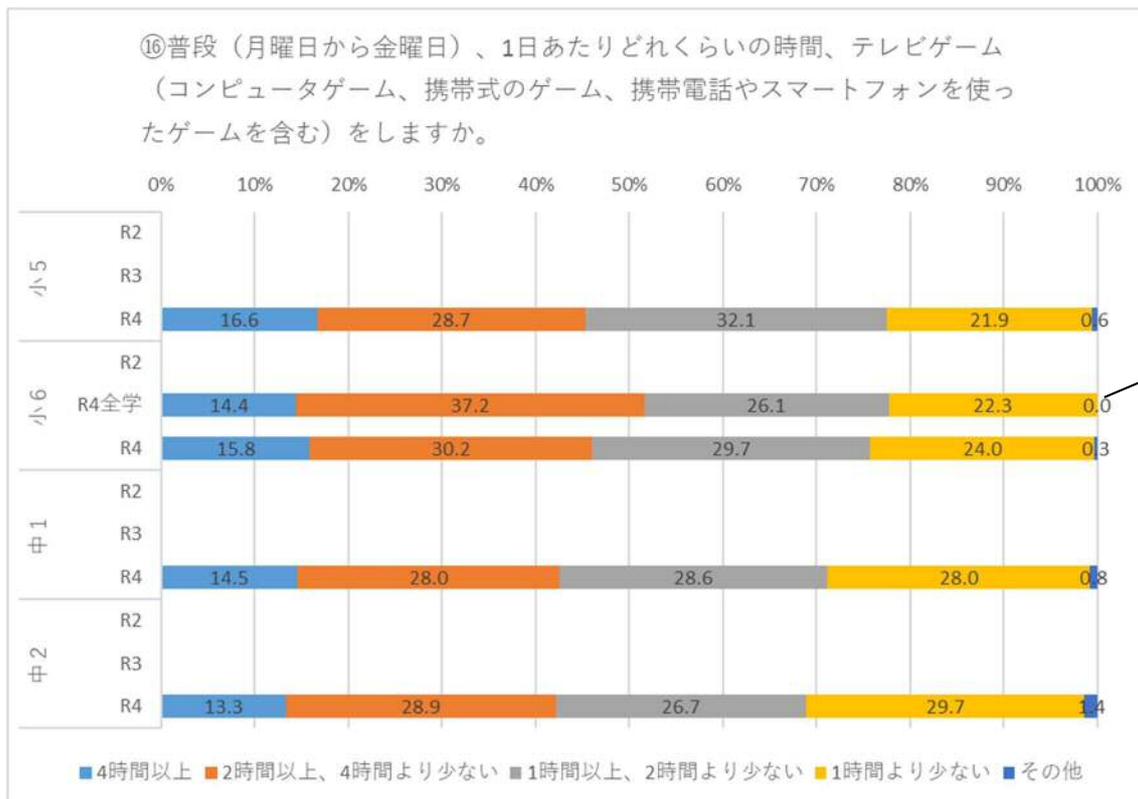
○新型コロナウイルス感染対策の影響もあり、地域の行事に参加する児童生徒の割合は下がっている。また、地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがあると回答した児童生徒の割合も下がっている。今後もふるさと教育において、地域での体験や素材を各教科で取り上げることで興味・関心を持たせ、学びを社会生活に生かす意欲を高める必要がある。コロナ後も地域との持続可能な関係性を構築するために連携をさらに進めていく必要がある。





(4) その他

○普段（月曜日から金曜日）、1日あたり2時間以上ゲームを使用している児童生徒の割合が4割を超えている。小学校では、1時間以上 SNS・動画視聴をしている児童の割合が大幅に上がり、中学校でも SNS 等を長時間使用する割合は上がる傾向にある。また、4時間以上ゲームや SNS 等をしている児童生徒が、どの学年にも一定割合いる。家庭での時間の使い方や SNS やインターネット等の利用の仕方について家庭と連携して、共通理解を図るとともに、各校で行われているノーメディアデー等の取組が、日常生活でも生かされるよう継続した指導が必要である。



※新規設定の質問のため R2・3 のグラフは掲載していない。参考として R4 全国学力・学習状況調査の第6学年の同質問の調査結果を掲載

VI 今後の対応

しまねの学力育成推進プランの推進

県教育委員会と市町村教育委員会が連携・協力し、全国学力・学習状況調査及び県学力調査結果分析に基づいた指導の改善を推進する。

＜各学校における取組の重点＞

【課題】 自分の考えを言葉で表現できていない

【対策】 **今日の授業から、自分の考えを語尾までしっかりと話すこと（説明すること）書くことを繰り返し指導する。**

（活動の設定、話し方・書き方の指導、教師がさえぎらないことも意識して）

（活動例）

【国語】：自分の考えやそれを支える理由や根拠、予想される反論とそれに対する考えを書く。

【算数・数学】：数・式、図、表、グラフなどを活用して根拠を明らかにして他者に説明する。

【英語】：聞いたり読んだりした内容について、自分の考えや気持ち、意見や感想を話したり、書いたりする。

【課題】 十分定着していない内容等がある

【対策】 **次年度の学習への接続として、フォローアップ教材等を活用し、年度内に身に付けるべき力を着実に身に付けられるよう指導する。**

【課題】 家庭学習時間の減少、SNS等の利用の増加

【対策】 **普段の家庭生活における家庭学習時間について見直す機会を設けるとともに、SNSやインターネット等の利用の仕方について、その利便性を踏まえながら、家庭とも連携し、共通理解を図る。**

<県教育委員会の取組>

○授業の質の充実

- (1) 「**県学力調査結果分析を生かした授業づくり**」説明動画の作成、掲載
※国語、算数・数学、英語の授業づくりのポイントの説明

- (2) **しまねの学力育成プロジェクト リーフレット**の作成・配付
※県内5市の取組及び成果を記載

- (3) **令和5年度 教科等の指導の重点**の作成、掲載
※各教科等の指導のポイントを小中高別に記載

- (4) **令和5年度版 授業チェックリスト**の作成、掲載
※全国学力・学習状況調査や県学力調査の結果を踏まえ、日々の授業づくりで大切にしていきたい点をまとめたもの

○家庭学習の充実

- (1) **家庭学習の意義・家庭学習を見通した授業づくり**について教育情報紙で周知

- (2) **家庭学習の指導事例**の収集・発信

○地域に関わる学習の充実

- (1) 「**総合的な学習（探究）の時間**」ガイドブックを活用した研修の実施
※小・中・高の連携による一貫性をもった「総合的な学習（探究）の時間のあり方」を普及